

とよのつこ

学校便り
長野市立豊野西小学校

11月
平成22年度

人権同和教育月間

11月は、人権について考え、人権意識を高める取り組みを重点的に行う1ヶ月間でした。昨年度は、なかよし月間として1ヶ月を通しての取り組みをしてきましたが、期間が長くてやや意識が曖昧になってしまうとの反省を受け、今年は、前半を**あいさつ旬間**（1日～12日）、後半を**なかよし旬間**（15日～26日）として、それぞれ重点的な取り組みをしました。

人権同和教育月間のねらい

- ◎一人ひとりの問題をみんなの問題としてとらえ、いじめや差別をなくすために立ち向かっていける子どもを育てる。
- ・身の回りにある偏見や差別に気づき、それらを許さず、なくしていこうとする実践力を育てる。
- ・自分の良さや友だちの良さ、違いに気づき、互いにその良さや違いを認め合おうとする気持ちを育てる。
- ・子ども人権教室の活動を知ることを通して、仲間を支援、共に差別をなくすために歩もうとする意識を高める。

あいさつ旬間

あいさつは、人間関係づくりの基本の1つです。学校教育活動の重点でもあります。そこで、月間の前半に、あいさつについての見直しと、よりよいあいさつについての意識を高めるために、あいさつ旬間を設けました。

主な取り組み内容

- ①あいさつ標語の発表 今回は、2・5年生
- ②あいさつ当番 今回は、2・4・5年生
- ③地域の方のインタビュー放送
- ④児童会各委員会からの呼びかけ放送



なかよし旬間

全ての子が、それぞれ互いに尊重され楽しい学校生活を送れる願い実現のために、ふだん何気なくすごしてしまっている友だちや周りの人との関係を、改めて見返し考えることで、自分を大切にし相手のことを思いやる気持ちをさらに育てていくのがねらいです。

主な取り組み内容

- ①全校参観日（16日）
 - ・人権同和教育に関する授業（各学級）
 - ・PTA講演会 親子で聴導犬について学びました。
- ②校長講話（24日） ※裏面参照
- ③なかよし集会（12/1） なかよし旬間中の各学年学級の取り組みを発表して、お互いの学びを共有します。
- ④その他
 - ・縦割り班活動（全校飯ごう炊さんなど）、清風園、保育園との交流
 - ・赤い羽根共同募金 18日～19日 4096円が集まりました。

11月のトピックス

人権同和教育関係以外にも、たくさんの行事がありました。主なものを紹介します。

- 5日（金）全校飯ごう炊さん →
- 11日（木）合同音楽会 6年
- 14日（日）マーチングバンド東関東大会（埼玉）出場
- 15日（月）護身術学習 6年
- 17日（水）マラソン大会
- 22日（月）避難訓練
- 26日（金）スケート教室 1～3年

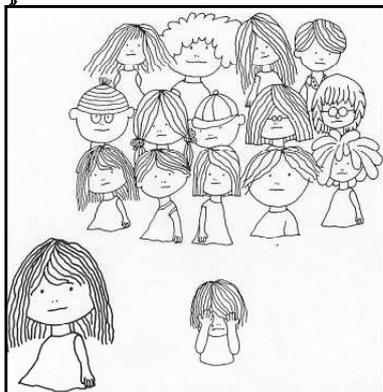


「聞こえない声に耳を傾けよう」

みなさんには聞こえるでしょうか。

たとえば、「ぼくをきれいにしてくれてありがとう」 一生懸命掃除をしたり花や絵を飾ってくれたりすると、西小学校の校舎が喜んでくれる声が聞こえてきます。反対に「頭にきたからって言って、ぼくのところけらないでよ。」 みなさんは、壁をけったり戸をけったりすることはありますか。校舎が悲しがっていますよ。友達同士楽しく遊んでいます。追いかけてっこをしてドアに鍵をかけたり強く閉めたりすると、西小学校の校舎から「乱暴なことしないでよ、私を大切にしてくれよ」と聞こえてきます。その時は、もう一つしめられた友達からも、「戸を閉められていやだな、悲しいな」という声が聞こえてきます。

さて、友達からの、「いやだな、やめてよ」という声は聞こえているのでしょうか。または、聞こえないから、お友達は悲しい思いをしていないのでしょうか。今日は、なかよし旬間に関係して、友達の聞こえない声は無いかな？ということをお話します。



この絵を見て下さい。友達の中で、男の子が一人泣いていますね。どうしたのでしょうか。一人ひとり聞いてみましょう。

まずは、この女の子「学校の休み時間にあったことだけど、私のせいじゃないわ」

次は、「はじめたときのこと、見ていないからどうしてそうなったのか ぼくは知らない」

「本当は、私 見たの。だから知っているの。でも、とにかく私のせいじゃないのよ」「ぼくは、怖かった。なにもできなかった。見ているだけだった」「おおぜいでやったのよ。ひとりではとめられなかったわ」「おおぜいでたたいた。みんなたたいた。ぼくもたたいた。でもほんのすこしだけだよ」「はじめたのはわたしじゃない。

ほかのみんながたたきはじめてたのよ。私のせいじゃないわ」

「自分のせいじゃないか。その子がかわっているんだ。ほかの子はみんなふつうなのに」「考えることがちがうんだ。ぜんぜんおもしろくないんだ。自分のせいだよ」「その子はひとりぼっちで立っている。おまけに目をとろんとさせて泣いているんだ」

「泣いている男の子なんて最低よ。おもしろくない子なのよ」「先生にいつければいいのに、よわむしなのよ。わたしには関係ないわ」「そんなことがなかったら、その子のことほとんど忘れていたわ。なにもいわないんだもの」「ひとこともしゃべらなかった。僕たちをみつめていただけだった。さげべばいいのに」

最後に周りの人はどういったのでしょうか。

「たたいてもわたしはへいきだった。みんなたたいたんだもの。わたしのせいじゃないわ」

さて、この泣いている友達は何の心でどんなことを言っているのでしょうか。

「みんな たすけてよ」でしょうか。それとも「ぼくも なかまにいれてよ」「いじわるは やめてよ」「ぼくのこと かんがえてよ」なののでしょうか。泣いている友達の中の人がわかる人になれるといいですね。

この中にもたくさんいると思います。「友達が悲しむから言うのをやめよ！」って気がつく人。友達がこまっていたら「どうしたの、手伝ってあげるとか、頑張ろう」って声をかけられる人。

高学年になれば、「自分とはなれたところで、差別を受けている人がいる。差別をなくすよう頑張ろう」「世界には困っている人たちがいる。助けてあげよう。」と直接会ったりはなしたりしなくても、困っている人の声が聞こえるかもしれません。

困っている人の心の声が聞こえる人はすてきですね。そうなるためには道徳や学級の時間、そして、国語や社会、算数や音楽などいろんな勉強を通して、自分の考えを言ったり人の考えを聞いたりすることが大切ですね。そういう積み重ねによって、心の中の声が聞こえるようになっていきます。

今日は、なかよし旬間にちなんで、聞こえない声を聞こえるようになるろう。というおはなしをしました。

